

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi



年頭あいさつ

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 松岡 優

新年あけましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えてましたこととお喜び申し上げます。旧年中は会務運営に多大なるご支援、ご指導、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年も多くの出来事がありました。スポーツ界では、新春の箱根駅伝で青山学院大学が大会新記録で連覇を果たしたのを皮切りに、イチロー氏の米国野球殿堂入り、大谷・山本・佐々木選手らが所属するドジャースのワールドシリーズ連覇など、日本人アスリートに一喜一憂する一年でした。

国内では、大阪・関西万博に2500万人以上が訪れ、映画「国宝」の記録的興行など明るい話題がある一方、夏の平均気温が観測史上最高となり、気候変動が社会全体に深刻な影響を及ぼし始めていることを改めて実感しました。また、八潮市での道路陥没事故、全国で相次いだクマ被害、令和の米騒動をはじめとする経済の急速な変化など、地域の安全と社会基盤の強靭化が問われた一年でもありました。参議院選挙での議席変動により石破首相の退陣表明と高市氏の総裁選勝利により、わが国初の女性首相が誕生するなど、政治的な転換点も経験する一年となりました。

こうした環境の変化は、医療にも大きな影響を及ぼしています。コロナ禍以降、医療体制の在り方や地域医療連携の重要性が再評価される中で、臨床検査は診断・治療・健康管理の根幹として、これまで以上に高い品質と専門性が求められ、タスクシフト/シェアも積極的に進めなければなりません。加えて、AIの活用は既に実験段階を超え、形態分野での解析、検査結果判定支援など、多くの領域で実装が進みつつあります。これらの技術は、検査精度の向上や業務効率化に寄与する一方、専門職である私たち臨床検査技師には、より高度な判断力、データリテラシーが求められる時代が到来しています。

今年は、令和8年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第62回）（会場：ソニックシティ）が、本年11月に埼玉県が担当で開催されます。本学会は、各都県の臨床検査技師が最新の知見を共有し、研鑽を深め、成長の場となる大変重要な機会です。開催県として、着実に準備を進め、学術・運営ともに高い評価をいただけるよう、実行委員・理事が一丸となって臨む所存です。会員の皆さんにおかれましても、発表・参加により本学会を大いに盛り上げていただければ幸いです。

さらに昨年来、災害対策の強化が本会の極めて重要な課題であります。埼玉県や検査薬卸連合との災害時協定の締結、災害訓練の実施など、さらに深化させる取り組みを進めてまいります。

本年が、会員・賛助会員の皆さんにとって健やかで安全、そして希望に満ちた一年となりますよう心から祈念申し上げます。

本年も公益社団法人埼玉県臨床検査技師会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

第53回 埼玉県医学検査学会の御礼

学会長 潑沢 義教

謹んで新春のお慶びを申し上げます。令和8年の幕開けにあたり、皆さまが健やかに新春を迎えたこと、心よりお慶び申し上げます。

令和7年12月7日(日)ソニックシティにて開催いたしました「第53回埼玉県医学検査学会」に際しましては、皆さまより温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。当日は幸いにも晴天に恵まれ、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行が懸念される中ではありましたが、臨床検査技師会員、理事、研究班会員、技師会事務所職員、賛助会員、そして当日の運営にご尽力いただいた実務委員の皆さまのお力添えにより、一般市民の方々を含む1,295名ものご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。演題数は100題に達し、活発な学術交流の場となりましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

一方で、提出書類の不備や特集号における記載ミスなど、運営上の不手際により関係各位にはご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。そのような中にあっても、皆さまより寛容なご理解を賜りましたことに、重ねて御礼申し上げます。

また、長きにわたりご尽力くださいました実行委員の皆さま、ならびに学会担当理事の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。

今回の学会テーマ「Hop Step Jump ~飛躍する未来に向けて、今学ぼう~」のもと、ご参加いただいた皆さまお一人おひとりが未来に向けた学びを深め、次の一步を踏み出すきっかけとなつておりましたら幸いに存じます。

略儀ながら書中をもちまして、第53回埼玉県医学検査学会終了のご報告と御礼とさせていただきました。早々に第54回実行委員へとバトンを引き継ぎ、さらなる発展を目指してまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第53回 埼玉県医学検査学会を振り返って

実行委員長 野本 隆之

第53回埼玉県医学検査学会にご参加いただきました、すべての皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。学会長からのご報告の通り、盛会のうちに幕を閉じることができました。

今学会も様々な苦労話や反省がございました。企画を盛り込みすぎて、例年よりも早く受付を開かなければならなかつたものの、会場の使用制限もありギリギリでした。何度も思案して作成したプログラムでしたが、会場によっては人が溢れてしまう状態に、当日の人の流れは読みづらいものの、学生の動きに関しては学校の先生と打ち合わせ可能だったかなと思いました。また市民公開において「伊奈学園の公演が無料で見れるなんてすごい」というお声を多数いただきました。伊奈学園の公演と臨床検査技師の職業紹介もあることから、今回はじめて中学生の参加を促すため教育委員会から中学校への配架を行いましたが、なんと学会当日に北辰テストのこと、痛恨です！まあ、挙げればきりがないくらいいろいろなことがございましたが、ご参加いただいた市民の方から感謝の手紙や差し入れなどいただき、全ての苦労が報われた思いでした。

慰労会での実行委員の晴れ晴れしい笑顔が、今回の学会が一人一人にとってとても価値ある経験の連続だったのではないかと思わせてくれます。この貴重な経験を漏れなく次につないでいければと思います。

これからも医学検査学会へのご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



研究班研修会報告

テーマ 小児の白血病と輸血について
～チーム医療の中で臨床検査技師に求めることはなにか～

主催 輸血検査研究班・血液検査研究班合同

実施日時：2025年10月31日 19時00分～20時15分

会 場：RaiBoC Hall市民会館おおみや集会室8 教科・点数：専門教科－20点

講 師：荒川 ゆうき（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター）

参加人数：会員36名

出席した研究班班員：（輸血検査研究班）宮澤翔子 岩崎篤史 廣田渉 佐々木翔太 志村祥太
(血液検査研究班)なし

研修内容の概要・感想など

今回は小児の白血病と輸血をテーマに、輸血・血液検査研究班合同で研修会を実施した。

荒川医師から小児の輸血に関する基礎知識からのCase Study、白血病の概論等について詳しい説明があった。

小児の輸血に関する基礎知識では輸血の特徴や現在のガイドラインにおける小児の輸血は主に新生児や生後4カ月までの小児輸血について記載があることや埼玉県立小児医療センターでの検討結果を交えた適正な輸血療法についての紹介があった。埼玉県立小児医療センターでは、小児の重度慢性貧血に対しての輸血療法の検討結果について説明があり、とても参考になるものであった。

Case Studyでは主訴や現病、検査所見から患者の病態を理解し、治療方針を決定していく流れを医師視点から説明があった。貧血があるからと言って必ず輸血をする必要がなく、鉄剤の投与のみで改善する症例や疾患を鑑別するために、必要な追加検査について実際の症例とともに紹介があった。

白血病の概論では骨髄検査でわかることや機序などの基礎的なことから現在の白血病の治療の進め方、新しい治療についての紹介があった。白血病の新しい治療についてでは個々のがん特有の分子異常を標的にするオーダーメイドの治療薬について説明があり、今後の医療について知るきっかけとなった。

施設によって、小児の輸血について実際に触れることが難しいため、今回の講演は小児の輸血について知識を深める良い機会となった。院内で小児の輸血を頻繁に実施している施設もそうでない施設も今回の講演で得られた知識を日々の業務に活用することで、より安全な輸血治療の実施につなげることが可能であると考える。

（文責：志村祥太）

テーマ 第18回1都2県臨床化学検査研究班合同研修会
「臨床化学から拓げる検査技師の可能性」

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2025年11月1日 14時00分～18時00分

会 場：大宮ソニックスティ 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：HPLC技術の臨床現場への適応と信頼性評価～血中薬物濃度への応用～

講 師 1：田中 潤（株式会社日立ハイテク）

講 演 2：臨床が求める多発性骨髄腫と最新トレンド

講 師 2：老沼 久俊（SEBIA JAPAN株式会社）

講 演 3：無知の知～糖尿病クリニック業務を通して～

講 師 3：永井 謙一（おおはま糖尿病・腎クリニック）

講 演 4：日常検査室から始まる研究と工夫～採血管検討事例を含めた展望～

講 師 4：久米 幸夫（東京大学医学部附属病院）

参加人数：会員47名 賛助会員3名

出席した研究班班員：北川裕太朗 杉村楓 永井謙一 田中満里奈 河野邊和弘 稲葉拓郎

関根梢恵 廣瀬良磨

研修内容の概要・感想など

第18回1都2県臨床化学検査研究班合同研修会を11月1日に開催した。本研修会では、臨床化学の枠組みを基盤としつつ、測定技術からクリニック業務、研究の進め方まで幅広い内容を学ぶ機会となった。

田中氏は、薬物血中濃度測定の考え方とTDMの重要性について述べ、定量分析法の基礎を解説した。また、HPLC装置であるLM1010の特徴として、免疫法では対応できない項目を追加できる点、前処理や定期メンテナンスの負担が軽減される点、測定時間が短い点を示した。さらに、精度管理の方法や機器の設置例、各薬物の測定評価について説明し、HPLCの活用場面を具体的に示した。

老沼氏は、骨髄腫に関連する検査について概説した後、キャピラリー電気泳動の構造と原理、6分画の特徴について説明した。あわせて、M蛋白を同定する際の免疫固定法とイムノタイピング法の違い、測定手順、結果の解釈について述べた。さらに、ダラツムマブ投与の影響を補正するHYDRASHIFTの仕組みと特徴にも触れ、骨髄腫検査における最近の動向を示した。

永井氏は、糖尿病クリニックの受付、処置室、秘書業務の流れを具体的に説明した。受付では、患者情報の管理方法、マイナ保険証、AIによる電話対応などを紹介した。処置室では、血圧測定、糖尿病治療薬の種類や作用、近年登場した薬剤の特徴について述べた。秘書業務では、診察前準備、カルテ記事の作成、処方箋入力、残薬確認、次回予約の設定などを解説し、カルテ作成にAIを用いる取り組みも紹介した。そのほか、eGFRやアンチエイジングに関する内容にも触れた。

久米氏は、血糖採血管の種類と特徴を示し、採血管研究の進め方について述べた。イノシン添加フッ化ナトリウム採血管およびATP添加フッ化ナトリウム採血管については、従来の採血管と比較して採血後4時間までの血糖値低下を緩和できることを説明した。また、イノシン添加採血管の改良点を紹介し、今後の実用化の展望についても述べた。さらに、研究資金の獲得方法や採択率を上げる工夫について触れ、どの施設においても研究に取り組む姿勢をもつ重要性を示した。

今回の研修会では、測定技術、骨髄腫検査、糖尿病診療支援業務、採血管研究など、多岐にわたる内容を学ぶことができた。日常業務と関連する事項も多く、参加者にとって今後の業務を考える上で参考となる情報が得られた研修会であった。

（文責：廣瀬良磨）

テーマ 臨床化学における腎機能検査のアレコレ

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2025年9月12日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：腎臓の基本と腎疾患のデータの見方

講 師 1：田中 満里奈

(地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センター)

講 演 2：シスタチンC、尿中アルブミン測定の臨床的意義

講 師 2：平野 佑樹 (PHC株式会社)

参加人数：会員32名 賛助会員2名

出席した研究班班員：北川裕太朗 杉村楓 永井謙一 田中満里奈 河野邊和弘 関根梢恵

稻葉拓郎

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では「臨床化学における腎機能検査のアレコレ」をテーマに行われた。

講演1の「腎臓の基本と腎疾患のデータの見方」では糸球体濾過・尿細管再吸収・分泌の尿生成の機序を軸に、腎機能評価の根拠となる検査項目が解説された。腎機能検査として、RPF・GFR・近位尿細管・集合管機能の検査や、クレアチニン、BUN、シスタチンC、U- β 2MG、U- α 1MG、L-FABP等の臨床的意義についても触れられた。腎疾患については糸球体疾患・尿細管間質性疾患・腎血管疾患の代表例と、その病態に対応する検査データが系統的に説明された。腎疾患は多彩な臨床像を呈するため、単一検査値ではなく複数の指標を総合的に評価する必要があることを再確認した。

講演2の「シスタチンC、尿中アルブミン測定の臨床的意義」では腎機能マーカーであるシスタチンCと尿中アルブミンの臨床的意義について解説が行われた。シスタチンCは全身の有核細胞で產生され、糸球体濾過のみで排泄される低分子蛋白質である。クレアチニンと比較して筋肉量・性別・年齢の影響を受けにくく、より早期に腎機能低下を反映する。尿中アルブミンは糖尿病性腎症の早期診断に非常に有用であり、随時尿での評価には尿中クレアチニン補正が必要となる。またSGLT2阻害薬によりアルブミン尿が低下し、腎・心血管イベントの抑制効果が報告されている。

本研修会を通じ腎臓や腎機能検査について基礎から学ぶことができ、シスタチンCは従来のクレアチニンの弱点を補う早期腎障害マーカーとして、またU-ALBは糖尿病性腎症の早期発見において有用であると感じた。

(文責：稻葉拓郎)

テーマ 生体防御について 免疫細胞の生体防御のしくみ～免疫疾患も交えて～

主催 血清検査研究班

実施日時：2025年11月13日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 905会議室 教科・点数：基礎教科－20点

講 師：渡邊 剛 (埼玉医科大学総合医療センター 中央検査部)

参加人数：会員20名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 吉田萌香 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は生体防御機構として「自然免疫と獲得免疫」「抗原」「サイトカイン」「抗体と補体」の4つについて基礎内容から臨床的意義まで幅広い内容であった。

生体防御機構は外部から病原体や異物、生体内で発生する異常な細胞から体を守るための仕組みである。主に物理的・化学的なバリア機能（皮膚、粘膜など）と免疫機能がある。免疫は、生まれつき備わっている自然免疫と、特定の異物を記憶して反応する獲得免疫に大別され、講演ではこれら機構の全体像と各免疫細胞の役割と関わりについて説明があった。

抗原は生体に免疫応答を引き起こす物質である。抗原は完全抗原と不完全抗原（ハプテン）に大別される。前者は抗体産生、抗体結合いずれも行える抗原であり、微生物やウイルスがこれに該当する。後者は抗体産生能力を有さないが抗体結合を行える抗原であり、ペニシリン系抗菌薬や一部の非ステロイド性抗炎症薬が該当する。また、不完全抗原は高分子の担体（キャリア）と結合することで完全抗原として作用し、免疫応答を誘導する。抗原は主に6種類（同種抗原、異種抗原、異好抗原、自己抗原、種特異抗原、隔絶抗原）があり、細胞内外の由来によりMHCクラスの抗原提示機構が異なる。

サイトカインは様々な刺激により免疫細胞などから産生される蛋白であり、対応する受容体に結合して細胞内のシグナル伝達を引き起こす物質である。約800種類あり、主としてインターロイキン、ケモカイン、インターフェロンなどがある。講演ではマクロファージ系、ヘルパーT細胞系を例に免疫細胞とサイトカインの関係が示され、また、サイトカインに関する疾患について解説があった。

抗体は液性免疫の主たるものであり、IgG、IgA、IgM、IgD、IgEの5種類がある。主な作用に貪食作用促進（オプソニン化）、中和作用、補体の活性化がある。補体は病原体が体内に侵入すると活性化される蛋白質であり、主に9つの成分（C1～C9）がある。基本情報とともにIgG4関連疾患や発作性夜間Hb尿症（PNH）など主に関連疾患についての解説があった。

生体内的生体防御機構とその特徴の理解は、免疫血清検査や細胞検査の意義を理解するため重要なである。今回の研修会は免疫血清検査項目の臨床的意義を改めて確認する良い機会となつた。

（文責：岡倉勇太）

テーマ 遺伝子分析科学認定士・認定臨床染色体遺伝子検査技師 取得に向けて

主催 遺伝子染色体検査研究班

実施日時：2025年11月14日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：遺伝子分析科学認定士（初級）および認定臨床染色体遺伝子検査技師（遺伝子分野）

講 師 1：石橋 佳朋（学校法人明星学園 国際医療専門学校）

講 演 2：認定臨床染色体遺伝子検査技師（染色体分野）

講 師 2：阿部 楓（埼玉医科大学病院 病理診断部）

参加人数：会員38名

出席した研究班班員：（遺伝子染色体研究班）折原悠太 石橋佳朋 相良真理子 小内玲子
江原淳子 阿部秀俊 園山政行

研修内容の概要・感想など

「遺伝子分析科学認定士・認定臨床染色体遺伝子検査技師取得に向けて」をテーマに研修会を開催した。

前半30分は、石橋氏による遺伝子分析科学認定士（初級）および認定臨床染色体遺伝子検査技師（遺伝子分野）の概要、試験内容、ならびに受験対策について説明があった。遺伝子分析科学認定士（初級）は、基礎的知識から実践的技術まで幅広い範囲が問われ、筆記試験に加えて動画による誤操作の指摘や基本的操作を確認する実技試験が含まれることが示された。出題基準の把握、問題集の活用、精度管理を理解することが重要と説明された。さらに、認定臨床染色体遺伝子検査技師（遺伝子分野）ではPCR、シークエンス解析、NGS、遺伝形式など高度な内容が含まれ、組合せ問題が多いため基礎知識の正確な理解が不可欠であると述べられた。

後半30分で阿部氏による認定臨床染色体遺伝子検査技師（染色体分野）の受験経験について説明があった。受験資格や申請手順、必要となる学術単位の取得方法、試験日程などが整理され、実務と学習をどのように両立したかが具体的に述べられた。技術教本およびカリキュラムと照らし合わせた学習が必要であったこと、また核型並べ替えの練習など日々の業務と試験対策が密接に関連していたことが示された。

資格取得に向けた具体的な準備と学習の進め方、ならびに業務との関連が明確となり、今回の研修内容が参加者の理解の一助となり、今後の業務において有用なものとなれば幸いである。

(文責：折原悠太)

テーマ **予期せぬ反応を考える(中級者向け)～問題解決用試薬の特性を理解する～**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2025年11月18日 19時00分～20時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 師：齋藤 大輔（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社）

参加人数：会員89名

出席した研究班班員：宮澤翔子 廣田渉 岸健太 佐々木翔太 志村祥太

研修内容の概要・感想など

今回は予期せぬ反応を考える（中級者向け）をテーマとしてWeb研修会を開催した。

問題解決用試薬といえば、各種抗体試薬や解離試薬、還元剤など多くの種類が存在する。この問題解決用試薬の特性を理解し、予期せぬ反応が出現した際に、適切に使用することが結果解釈の鍵となる。血液型検査でオモテウラ不一致になった際には各検査に影響を及ぼす要因を考慮していくが、はじめに再検査を実施して、使用試薬の期限の確認、手技の確認、検体の性状について確認することも重要である。試薬や検査手技に問題がないことを確認したうえで、各要因を考慮し、精査に進んでいく。今回、ルーチン業務で当たり前に使用している試薬の性状および特徴を再認識することができた。症例提示の中ではカラム凝集像が示され、カラム結果に対する考え方としてオーソバイオビューカセットに含まれる高分子剤はオモテ試薬の中でコントロールに一番多く含まれており、結果解釈として一様に考えてはいけないことが分かった。不規則抗体検査では自己抗体によって汎反応性凝集が起こることも多い。このとき自己抗体の中に同種抗体を見つけることは検査者の技量に依存するため、対処法を理解し、実施していくことの重要性を感じた。

施設規模により所有している問題解決用試薬は異なるが、安全な輸血療法の実施のため可能な限りの検査を実施し、結果の解釈に繋げていくことが重要である。今回はメーカーの学術の齋藤氏に講師を依頼したことで、問題解決用試薬の特性をより深く理解することができた。試薬を正しく理解し、効果的に使用することが結果報告に結びつき、その結果、安全な輸血治療に繋がることを実感できた。この研修会で得た知識を日常業務に活かしていきたい。

(文責：宮澤翔子)

テーマ **検査機器の新規導入・更新のときにすべきこと ～設置環境・検討方法・災害対策・ISO15189のポイント等を交えて～**

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2025年11月26日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点

講 師：館野 真介（システムズ株式会社）

参加人数：会員63名 賛助会員1名

出席した研究班班員：（公衆衛生検査研究班）菊地孝司 鈴木由美子 坂田竜二 佐藤和
吉田翔平

研修内容の概要・感想など

検査機器の新規導入や更新はタイミングもあるため、すべてのスタッフが平等に携わることは難しいが、計画から稼働までの工程を滞りなく遂行するためには経験が重要である。今回の研修会では、検査機器の新規導入や更新する際の全般的な工程や注意点に加え、技師会でも力を入れている災害対策について重点的に取り上げた。

館野氏の講義は、①装置の設置環境、②装置・試薬の妥当性確認、③BCP（事業継続計画）の3つに分かれ、①②についてはISO15189のポイントも交えながら説明があった。装置の設置については温度、湿度、風（エアコンの風が直接当たらない、機器の吸排気口を塞がない）、ホコリ、振動、日光、ノイズ（遠心機などのノイズが発生する機器とは離しておく）などの環境に注意し、環境に起因した故障を未然に防ぐことが大事である。また、装置仕様を満たす電源・排水溝があるかどうかの確認や、保守・サービスのスペースも考慮する必要がある。装置・試薬の妥当性確認では再現性、直線性、相関性、干渉物質の影響、検出限界などの検証が一般的に行われる。妥当性確認については計画から受け入れ決定までの手順を検査室で定め、受け入れ可能と判断できる基準を明確にしておく必要がある。検査室だけでなく、メーカー、LISベンダー、施設担当者（用度課、施設課、システム課）などが関わるため、だれが、いつまでに、なにをするのかを明確にし、共有可能な工程表を作成しておくとよいとのアドバイスがあった。

BCP（事業継続計画）では災害対策について解説があった。BCPとは災害対応マニュアル等による初動対応を前提に、いかにして医療機関の機能を継続するかまでの計画である。BCPを策定するためには事前に優先すべき業務を選択しておき、必要な分析装置が非常時に稼働できるのかどうか（電源、水量、試薬・消耗品の在庫など）、復旧に要する時間などを整理しておく必要がある。また、災害対策検査室構築のポイントとして、検査機器の耐震対策の固定例や免震装置、停電・瞬低対策のUPS（無停電電源装置）などについて解説があった。

今回、館野氏からはサイバー攻撃についても追加で解説があり、災害対策を含めて検査室を守り、検査を止めないための備えが重要であることを改めて感じた。コスト面などからすぐに対応できないこともあるが、設置後であっても対策可能なことについては、各検査機器メーカーと協議が必要と思われる。本研修会が、いつ起こるか分かない非常事態に対して、一人一人が意識を持つことにつながる機会となれば幸いである。

(文責：吉田翔平)



お知らせ

令和8年度技師会会費納入のお願い

令和8年度技師会会費納入の時期となりました。会費は前納制となっており、令和8年2月27日(金)に登録済み口座より振替となりますので、ご準備をお願いいたします。

また、不明な点につきましては、埼臨技事務所までご連絡をお願いいたします。

なお、本年度で退会を希望される方は、3月31日までに（一社）日本臨床衛生検査技師会HPより手続きをお願いいたします。（2月1日以降に退会手続きを行った場合は、口座より引き落とされますので、返金手続きが必要となります。）

ご理解、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

会費の内訳については下記のとおりとなります。

会費内訳

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会	会 費	10,000円
	入会金	2,000円
公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会	会 費	5,000円
	入会金	1,000円

継 続 会 員 合 計	15,000円
新 入 会 員 合 計	18,000円

**令和7年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第9回 理事会議事録**

日 時：令和7年12月11日(木) 19時00分より
場 所：防衛医科大学校病院
 　　所沢市並木3-2 (Zoom会議)
議 題：I. 行動報告 II. 報告事項
 　　III. 承認事項 IV. 議題
出 席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部
 　　西田 三木 佐瀬 網野 藤原
 　　伊藤 塚原 神嶋 笛木
 　　長谷川 神戸 小林 工藤
 　　久保田 長岡 原 土田
 　　(監事)島村 細谷

欠 席：(理事)なし
 　　(監事)なし

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和7年11月13日～令和7年12月10日)

- 11月13日(木)令和7年度第8回理事会：
 　　松岡、猪浦、濱本、阿部、西田、
 　　三木、佐瀬、網野、藤原、塚原、
 　　神嶋、笛木、長谷川、神戸、小林、
 　　工藤、久保田、長岡、原、土田、
 　　島村、細谷
- 11月19日(水)第4回青年部会議：濱本、神戸
- 11月20日(木)第4回日臨技理事会(Web)：猪浦
- 11月21日(金)2026年度日臨技関甲信支部・首都
 　　圏支部医学検査学会(第62回)
 　　第5回準備委員会：
 　　松岡、猪浦、濱本、阿部、西田、
 　　三木、佐瀬、網野、藤原、塚原、
 　　神嶋、笛木、長谷川、神戸、小林、
 　　工藤、久保田、長岡、原、土田
- 11月21日(金)全国「検査と健康展」事業部打ち
 　　合わせ：猪浦、塚原、神嶋、
 　　長谷川、笛木
- 11月22日(土)全国「検査と健康展」前日準備：
 　　塚原
- 11月23日(日)令和7年度全国「検査と健康展」
 　　埼玉会場：松岡、猪浦、塚原、神嶋、長谷川、
 　　笛木
- 11月28日(金)医療関連サービス振興会立入り調
 　　査：山口

- 11月29日(土)30日(日)日臨技認定試験：猪浦
- 12月1日(月)埼玉県精度管理事業立入調査：
 　　松岡
- 12月2日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委
 　　員会：伊藤、藤原
- 12月4日(木)医療関連サービス振興会立入り調
 　　査：山口
- 12月7日(日)第53回埼玉県医学検査学会：
 　　松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
 　　西田、三木、佐瀬、網野、伊藤、
 　　藤原、塚原、神嶋、笛木、長谷川、
 　　神戸、小林、工藤、久保田、長岡、
 　　原、土田、島村
- 12月8日(月)予算委員会：
 　　松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
 　　神戸、塚原、長谷川、久保田、
 　　小林、工藤

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 埼臨技事務所の動産保険、火災保険について
 　　昨年度と同様プランで契約更新する予定。

2 総務部

- 1) 11月28日(金)株式会社スイッチと業務委託
 　　契約を締結した。
- 2) 12月15日(月)より第559号発行予定。
- 3) 1月18日(日)(埼玉県038)、3月15日(日)
 　　(埼玉県039)
 　　タスクシフト指定講習会開催予定。

3 事業部

- 1) 11月19日(水)青年部会議を開催した。
 　　(別紙資料1)
- 2) 11月21日(金)全国「検査と健康展」事前打
 　　ち合わせを行った。
 　　(別紙資料2)
- 3) 11月22日(土)全国「検査と健康展」前日準
 　　備を行った。
 　　(別紙資料3)
- 4) 11月23日(日)全国「検査と健康展」を開催
 　　した。
 　　(別紙資料4)

4 学術部

- 1) 12月4日(木)生涯教育研修プログラム
 　　(2・3月)を埼臨技HPへ掲載した。
- 2) 埼臨技会誌Vol.72 No.2を12月15日発行予定。

5 精度保証部

- 1) 「2025年度審査日臨技品質保証施設認証制
 　　度実施要領」が日臨技HPで掲示されたこと
 　　について、埼臨技ホームページ、埼臨技だ
 　　より(12月号予定)にお知らせを掲載した。

6 会計部

- 1) 令和7年度正会員費3名15,000円、入会金
 　　3名3,000円、合計18,000円の入金があつ
 　　た。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助

- 成金96,000円の入金があった。
累計645,500円/14回
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第558号Web版12P
59,400円を支払った。
- 4) 予算委員会を開催した。 (別紙資料5)
- 7 精度管理委員会**
- 1) 第2回埼玉県医師会臨床検査精度管理調査委員会を2026年2月26日(木)実施予定。
- 8 一都八県会長会議 特になし**
- 9 日臨技関甲信支部 特になし**
- 10 日臨技**
- 1) 11月20日(木)第4回日臨技理事会が行われた。 (別紙資料6)
- 2) 11月30日(日)日臨技認定試験が行われた。
- 11 第53回埼玉県医学検査学会**
- 1) 11月11日(火)第13回実行委員会が開催された。 (別紙資料7)
- 2) 12月2日(火)第14回実行委員会が開催された。
- 12 2026年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)**
- 1) 11月21日(金)第5回準備委員会が開催された。 (別紙資料8)

III. 承認事項**1 事務局**

- 1) 会員動向(令和7年度分)
令和7年12月1日現在
会員数 3,721名 [令和6年度会員数3,612名]
(新入会員257名)
賛助会員 68社 [令和6年度72社]
承認された。

- 2) 事務員の冬季賞与について
上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 2 総務部 特になし**
- 3 事業部 特になし**
- 4 学術部 特になし**
- 5 精度保証部 特になし**
- 6 会計部 特になし**
- 7 精度管理委員会 特になし**
- 8 第53回埼玉県医学検査学会**
- 1) 日本医薬情報センター附属図書館より、53回埼玉県医学検査学会抄録集・プログラム等の提供のお願い (別紙資料9)
上記の件について、伊藤隆史学会担当理事より発言があり、審議の結果、学会に届いた経緯を調べたのち理事メール審議をするとした。
- 9 2026年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)**
特になし

IV. 議題

- 1 事務局 特になし**
- 2 総務部 特になし**
- 3 事業部 特になし**
- 4 学術部 特になし**
- 5 精度保証部 特になし**
- 6 会計部 特になし**

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

謹んで新年のお慶びを申し上げます。前回、筆者の担当は2024年1月号だったので、ちょうど2年ぶりの担当となります。時事ネタも新鮮味がありません(?)が、今年の干支は、丙午(ひのえうま)になります。丙は、陽の「火」を表し、太陽のような明るさや情熱、強い意志を表すそうです。今年は、3月のワールドベースボールクラシックに続き、6月にはワールドカップ北中米大会が開催されます。そして、臨床検査技師の世界に目を向けると、9月にはIFBLS2026が千葉県で開催され、さらに11月22・23日には、日臨技関甲信支部首都圏支部医学検査学会(62回)が埼玉ソニックスティで開催されます。日々の業務に情熱をもって取り組み、得られた知見を学会発表する一年にしてみませんか!また個人的な目標ですが、午年だけに趣味の競馬のほうも熱く(なりすぎないよう、ほどほどに)楽しんでいきたいと思います。



(濱本 記)